

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

アイデンティティー

配給/ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

2003 (平成15) 年9月11日鑑賞

<ソニーピクチャーズ試写室>

Data

監督: ジェームズ・マンゴールド
出演: ジョン・キューザック/レ
イ・リオッタ/アマンダ・ピ
ート/ジョン・ホークス/ア
ルフレッド・モリーナ/クレ
ア・デュバル/ジョン・マッ
ギンリー/ウィリアム・リ
ー・スコット/ジェイク・ピ
ュシー/ブルイット・テイラ
ー・ヴィンス/レベッカ・デ
モーネイ

👁️👁️ みどころ

「全米に衝撃を走らせた、ミステリアスな罠」という宣伝文句は、決して誇大ではない！大雨、洪水の中、一軒のモーテルに集まった10人の男女の悲劇と明日死刑執行を迎える多重人格者の無罪を証明する日記……。1時間30分という短い時間だが、緊張の連続。これぞ「サイコ・サスペンス！」という最高の映画だ。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<多重人格をめぐるサイコ・ミステリー>

ストーリーその1は、明日死刑執行を迎える連続殺人犯の無罪を証明する日記。この発見により死刑判決を下した判事が真夜中に呼び出され、再審理を開始すべきか否かの議論が開始された。

ストーリーその2は、大雨、洪水の中、一軒のモーテルに集まった10人の男女たちに次々と起こる悲劇。これがメインストーリーだ。子供を連れた夫婦、女優と運転手、刑事と囚人など何の関係もない(はず)の男女合計10名(プラス子供1人)が、一軒のモーテルに集まり、凄まじいサスペンスが展開される。なぜか謎の死をとげる人物の側には部屋のキーが……。犯人は誰か？逃走した囚人か？そんな単純なものではない！次から次へと起こる悲劇の連続は見モノだ。

<緊張感の連続>

この映画は1時間30分と短い、冒頭から緊張感の連続。大雨の中、モーテルを最初に訪れたのは、交通事故で妻をはねられた夫婦とその子供。この妻をはねたのは女優を乗

せた車を運転していた運転手。彼は元刑事だということが後でわかり、ストーリー展開上大きな役割を果たす。大雨のため車を動かすことができず、モーテルに集まってくるのは、それぞれ事情のありそうなヤツばかり。

中でも護送中の刑事と囚人というのが変なカップル。そのうえモーテルの主も何となく怪しい。みんな変なヤツばかり……。降り続く大雨がそんな緊張感を強めるとともに、時系列を多少無視してスクリーン上で繰り返して展開されるシーンによってその意味合いがよく分かる。

<最高のサイコ・スラーイ>

最近、サイコ・スラーイあるいは、サイコ・ミステリーという範疇の映画が多い。

あの大人気の『シックスセンス』（1999年）がそうだし、最近の『アンブレイカブル』（2000年）、『サイン』（2002年）、『ドリームキャッチャー』（2003年）、『デッドコースター』（2003年）、などもそうだ。日本でも最近では『ALIVE』（2003年）などがあるし、あの台湾映画『ダブル・ビジョン』（2003年）もそうだった。私はわりと「怖がり」だから、もともとサイコ・スラーイの分野はあまり好きな方ではない。しかしこの映画は最高。言うことなし。とにかく面白い。約50席の試写室の観客の多くから、見終わった後、「ふ〜……」、「疲れた……」、「怖かった……」という感想が聞こえてきたことが、それを如実に物語っている。

<罰するべきは人格か肉体か>

日本では、大阪教育大学附属池田小学校事件の宅間守被告人に対して、平成15年8月28日死刑判決が下され、大きな反響をよんだ。そして刑法39条の「心神喪失による無罪」をめぐる多くの議論が展開されている。9月10日には宅間被告弁護団が控訴の申立。これは、被害者サイドからは大きな批判を招いているが、弁護団としては苦渋の選択だ。

「多重人格」をめぐるのは多くの議論があり、何が正しく、何が間違っているのかを一義的に確定することは難しい。ところがこの映画は、真正面からこの多重人格者の「犯罪」をテーマとしながら、何ともすごいサイコ・スラーイに仕上げている。

「罰するべきは人格か肉体か?」、この不滅のテーマを考えるに絶好の映画。是非多くの人に観てもらい、カンカンガクガクの議論を期待したい。

2003年（平成15）年9月11日記